

農耕の源流エジプトを往く

第2回 カイロ中央青果卸売市場

写真・文／本誌副編集長・浅川芳裕



エジプトの首都カイロは人口約2000万人を抱える世界有数の都市である。その市民の台所と呼ばれるのがカイロ中央青果卸売市場だ。市北部のウブール地区に位置する。認可業者以外立ち入り禁止だが、市場の休日をねらってこっそり立ち寄ってきた。

アフリカ最大級の卸売市場。
休日のため閑散としていた。



エジプトはオレンジ生産量世界7位。



現在、内戦中のシリア産リンゴ。エジプトでリンゴと言えば、冷涼な高地のあるレバノンかシリアからの輸入物だ。



「おやつはいつもスイカ」とぼお張るスイカ業者。



市場の正門。搭載重量オーバー？



オーストラリア育種のガラニー・スミス種。



エジプト定番のスイカの並べ方。



場外の露天で働く子供たち。月収は500ポンドほど(約6000円)。大卒初任給の半分を稼ぐ。「学校には行けないけど、将来は空手家になりたい」と特大(生理障害)ジャガイモを持って笑顔で語るムスタファ君。



ベールをかぶった女性も外で働く。「少しでも家計を楽にしたい」と話す。



場外の規格外品を直接買い付けにきたカイロ市内のレストランオーナー。



元気な魚売りのおじさん。魚は元気がなさそう。



市場で取引されなかったクズものが、場外に並べられていた。エジプト農民の名誉のためにいっておくが、市内の露天やスーパーで売られる野菜類の品質は高い。逆にいえば、畑でとれたものをロスなく使いきる流通網ができているといえる。

カイロ中央青果卸売市場の敷地は130haでアフリカ最大規模である。大田市場の3倍超の面積だ。青果物が主力だが、鮮魚、冷凍鶏肉も取引される。

市場職員によれば、「場内には1200の青果業者がオフィスを構え、毎日4000台のトラックが入り出す」という。訪問日はあいにく(?)市場の休日だったため、荷動きはほとんどみられなかった。写真(上)は前日の余りものを場外で少年たちが路上販売している様子だ。日本では圃場廃棄されるような規格外のジャガイモなどクズ野菜が並べられ、破格の安値を求めて外食業者などが買い求めている。

エジプトは国土の9割が砂漠だ。耕地面積は330万haで日本の7割ほどと限られるが、世界有数の生産量を誇る農産物はいくつもある。ナスは世界3位、ソラマメやイチゴ、タマネギ、ニンニク、メロンが4位、トマト5位、右ページにあるスイカは6位だ。特産品のナツメヤシやラクダ肉、水牛のチーズは世界1位、アーティチョークやイチジク、マンゴージュースは世界2位とトップレベルだ(FAOSTAT2010)。

近年、輸出品目としてジャガイモを増産している。市場でもヨーロッパ品種がさまざま見られた。